

トランプ大統領の靖国参拝を実現させるためハガティ駐日米大使に要望書を送ろう

**英霊を被告席に座らせる
ことを許さない国民の会**
英霊を被告にして委員会
 502 冊 H29-10-20
 靖国神社を被告にするなぞ、絶たぬを得ない

【発行】
 英霊を被告にして委員会
 代表 中村重行
<http://mid.parfe.jp/kannyo/eirei/top.htm>
 【編集責任者】
 MASUK | 情報デスク
 増木直美
 大阪府豊中市上新田 2-6-25-113
 TEL 090-3710-4815
 FAX 06-6835-0974
<http://mid.parfe.jp/>
mid@jewel.ocn.ne.jp

米国はよくわかっていない国です。丁度10年前、私たちはまさか返事が来るとは思いもせず、シーファー駐日大使に手紙を送りました。「婦国は慰安婦に関する対日非難決議案を採択した。そのことで話がある。」詳細は後述しますが、大使は会えないものの、ナンバー政治部長 (No.3: 現米国外務省日本部長) が会う。日程調節をしよう。というのです。びくつきしました。腰を抜かすとはまさにこのことです。そして平成16年6月1日。赤坂の米国大使館に行ってきた。米国とはそんな国です。皆で要望書を送るとひよっとしたら瓢箪から駒、なに

おもしろいことが起こるかもわかりません。ひよっとするとひよっとします。少なくとも彼らの頭の中に『靖国神社』という固有名詞はインプットされるでしょう、そしてそれを、日本人が大事に思っていることを。Jewelryのブログより
<https://ameblo.jp/yobabo/entry-12317304115.html>
 トランプ大統領の靖国参拝を実現させるためにハガティ駐日米大使に要望書を送ろう
 2017-10-11 大阪 中谷良子
 トランプ米大統領11月上旬の訪日にあたり、トランプ米大統領と安倍首相による靖国参拝が実現することを国民として望まれている方々は多いと思います。トランプ大統領率いるチームトランプのペンス副大統領、ティラーソン國務長官、マティス国防長官、各閣僚、ホワイトハウス高官の方々へ靖国参拝の実現を求め、要望をし、働きかけていきます。まずはハガティ駐日米大使に要望書をお送りしました。英語ができる方は、オリジナルの英文を作成し、お送りいただき、苦手な方は以下の文章をコピーしてお送りいただいてもかまいませんが、少し変えたほうが良いかもしれません。今まで国家元首を国賓として招待しなが

ら靖国神社参拝希望を拒絶してきた歴代の首相と外務省。大きな期待を持つことは禁物ですが、トランプが靖国参拝を希望した際には拒否しないよう今から外務省に国民総出で働きかけなければならぬと思います。
 明治維新も、来年で150年を迎えます。戦後も70年を過ぎ、幕末の志士・国民的偉人の西郷隆盛も靖国の祭神に正式には入っておらず、自国の首相や参拝できない異常事態から、そのうち脱却しなければ新しい日本を作り上げることはできず、永遠に自主独立の道など夢のまた夢に終わってしまうと思えます。日本の明暗を握る分岐点となるため、トランプ米大統領の訪日において、首相の覚悟が試されます。現在の靖国神社は、他国の政争の玩具にされておらず、このままフリーにしておくはあつはあつです。本當の平和を見出すためにも、新しい日本に生まれ変わるためにも過去と決別し、勇気ある決断をされることを国民一同は望んでいます。

トランプ米大統領の訪日まで、まだ少し時間はあります。ごまかす直前。急いでください。
 〒107-8420 東京都港区赤坂 1-10-5
 電話番号: 03-3224-5000
 選挙で大忙しかと思いますが、いかに大きな意義あることです。毎日、日課として外務省、トランプ米大統領、各閣僚へ皆様のお声をお届けください。
 【首相官邸への意見先】
<http://www.kantei.go.jp/jp/iken.htm>
 【外務省への意見先】

<https://www3.mofa.go.jp/mofai/mai/qa.html>
 【ハガティ駐日米大使へお送りした要望書】
 Welcoming your November visit to Japan, and looking forward to a stronger U.S. - Japan alliance. And, here is a wish from a member of the Japanese citizens.
 Last year, Prime Minister Abe and former President Obama visited Hiroshima and Pearl Harbor to console the souls of the victims. It would be nothing less than befitting for President Trump to return the Yasukuni Shrine to return the gesture of Prime Minister Abe's offering of flowers at Pearl Harbor and the Arlington National Cemetery.

In order to bury any remaining grudges from the war and to further strengthen the U.S. - Japan alliance, I ask you to take Prime Minister Abe's hand and visit the Yasukuni Shrine, where are enshrined the spirits of all those who have fallen in the name of Japan since the Meiji Restoration.
 This would mark a new dawn in which the gulf between the U.S. and Japan would for the first time be bridged, and finally the souls of both Japan, s and the U.S., s ancestors would be set free.
 Thank you for your consideration.

It is said in Japan that there are more than 800 abduction victims, and their families left behind are getting old and are waiting in desperation to be reunited with their loved ones and embrace them.

My mother, too, once fell victim to North Korea's abductions, so it is not simply someone else's business. As a Japanese citizen, I hope that the U.S. - Japan alliance will be strengthened, and that the abduction issue will be solved as soon as possible and North Korea destroyed.

【日本語訳】

「11月の訪日を迎え、日米同盟のより強固な結びつきを歓迎します。そこで日本国民からお願いです。昨年、安倍首相とオバマ前大統領による広島、真珠湾慰霊行事が行われました。」

安倍首相の真珠湾、アーリントン墓地献花の返礼に相応しいのがトランプ大統領による靖国参拝です。是非、過去のすべての戦争による怨恨を取り払い、今後の日米同盟をより強固なものとするため、明治維新以降、日本国家のために散華した祭神を祀る靖国神社へ安倍首相と手を携え、参拝願いたいです。

それが実現された暁には初めて、我が国と米国の溝が解け、我が国の先人、米国の先人の御霊も解放されるものと思えます。

どうかご検討ください。日本では拉致被害者が800人以上いると言われており、残されたご家族も高齢になられ、拉致被害者との再会を、今か今かと待ちわびておられます。私の母

も北朝鮮による拉致未遂の被害に遭ったことがありませんので、北朝鮮による拉致は他人事ではありません。日米同盟の強化と共に一刻も早く拉致問題を解決していただき、北朝鮮を壊滅していただけるよう日本人として願う次第です。」

●主要外国元首の靖国神社参拝を拒絶した日本の総理大臣・参拝を希望、拒否した総理大臣、拒否した外務大臣

1960 昭和 35 年、米アイゼンハワー大統領 (安倍闘争のため訪日中止)

1963 昭和 38 年、泰プミボン国王 ↓ 池田勇人・大平正芳

1975 昭和 50 年、英エリザベス女王 ↓ 三木武夫・宮沢喜一

1993 平成 6 年、露エリツイン大統領 ↓ 細川護熙・池田幸彦

2002 平成 14 年、米ブッシュ大統領 ↓ 小泉純一郎・川口順子

(タイ国王は日本政府が参拝許可をしないので、元タイ駐屯中村明人中将に代参を依頼した) 総理府は、靖国神社参拝を打診してきた各国首脳の一覧表を公表してほしい。

(その他 2005 年拙文『国旗、国歌、心國神社、中国問題』参照)

安倍総理靖国参拝訴訟進捗状況

【東京】第12回口頭弁論 (判決) 東京地裁 H29-4-28 完全勝訴

敗訴した原告が控訴。現在控訴審期日待

【大阪】第3回口頭弁論 (判決) 大阪高裁 H29-2-28 完全勝訴 現在原告上告中、最高裁判断待ち

10年前のトランプ

米国大使館への手紙

正義と民主主義の国・・・アメリカ親愛なるトーマス・シーファー駐日アメリカ大使閣下

本年7月30日、貴国下院は、慰安婦問題に関する対日非難決議案を採択しました。

これは事実関係に於いて決定的に間違っています。このような事実を反することに、謝罪が出来るわけがありません。慰安婦問題は全く謂れなき濡れ衣であり、中国、韓国の政治的意図を持った捏造話であります。

貴国と我が国は戦後同盟体制で結ばれ歩んで参りました。ところが今回、その貴国が我が国を裏切り、友情と信頼を壊してしまつたのです。この議会決議をきっかけにカナダ、オランダ、フィリピン等の国々が追隨する動きがあることも聞き及んでおります。この問題が今後拡大すれば、我が国の名誉と国益が大きく損なわれることは言うまでもありません。故に、私たちはこの決議案が撤回されることを強く要望いたします。もし万一、誠実なる対応がない場合は、下記の通り貴国の謝罪を求め、米国の2度の原爆投下と、の4都市への無差別爆撃に対しての謝罪を求める国民運動を提起せざるを得なくなりません。以上、申し入れます。

アメリカ合衆国は、長崎・広島に原爆を投下したことを先ず謝罪せよ! アメリカ合衆国は、日本の64大都市への無差別空爆を先ず謝罪せよ! 米国は、原子爆弾を1945年8月6

日広島に、同年8月9日長崎に投下しました。一瞬にして広島では約14万人々が、長崎では7万以上の人々が命を落としました。米国は、一般市民の住むド真中に邪悪な原子爆弾を落としたのです。その後、数倍にも及び原爆被害者が生まれ、今日まで戦後62年間、その原爆症に苦しみ続けているのです。原爆投下のひどさ、無残さを筆舌に表わすことなど到底出来るものではありません。米国民は、この日本国民の苦痛を知っているのでしょうか!!

原爆投下は人類に対する決定的な犯罪です。ここに「ハーグ陸戦条約」から抜粋した条文をいくつか紹介してみましよう。陸戦条約の第22条には「害敵手段ノ選択ニ付、無制限ノ権利ヲ有スルモノニ非ズ。」とあります。第23条には「不必要ノ苦痛ヲ与フヘキ兵器、投射物其ノ他ノ物質ヲ使用スルコト」と特別禁止事項と規定され、第25条には「防守セザル都市、村落、住宅又ハ建物ハ、如何ナル手段ニ依ルモ、之ヲ攻撃又ハ砲撃スルコトヲ得ズ。」と明記され、更に第27条には「攻囲及砲撃ヲ為スニ当リテハ、宗教、技芸、学術及慈善ノ用ニ供セラルル建物、歴史上ノ記念建造物、病院並病者及傷者ノ収容所ハ、同時ニ軍事上ノ目的ニ使用セラレザル限、之ヲシテ成ルベク損害ヲ免レシムル為、必要ナル一切ノ手段ヲ執ルベキモノトス。」とあります。これでお分かりでしょう。米国は、「ハーグ陸戦条約」の禁止事項の全てに違反しています。アメリカは国際法上明らかに違反行為をしているのです。繰り返しますが、原爆投下は人類に対する犯罪です。無差別爆撃やホロコース

ト同様人権擁護を完全に無視しています。更に、大都市から64都市を無差別爆撃し90万人を殺しています。このような国際法違反も歴史上ありません。国際法に大きく違反している米国は、慰安婦問題で日本に謝罪を求める前に、先ず日本に謝罪すべきなのです。米国が日本占領後にまず真つ先にした事、それは米兵のための慰安所の建設でした。そのために多くの日本人婦女が集められ売春をさせられたのです。慰安婦問題で我々に謝罪を求める前に、まず謝罪すべきはアメリカ人なのです！

我々日本人は、まず米国政府に謝罪を求めます。

平成16年6月5日
福岡市議会議員 高山 博光
米国に長崎広島原爆投下の謝罪を求める地方議員と市民の会

【事務局】 『MASUKA情報デスク』

米国外使館訪問しレポート

私は、山本五十六長官が、戦争に反対した気持ちで理解できたような気がします。絶対米国と一戦交えてはいけません。長官は、「私は米国の工業地帯を視察し、戦争はすべきではないと思った。」と語られました。これは、我々にわかりやすく説明するためにこのように言われたのだと思います。もちろん文字通り、米国の工業力に脅威を感じたのは事実ですが、それ以上にアメリカ人気質、アメリカ人の懐の深さに脅威を感じたのではないのでしょうか。

昨日(平成19年九月)5日、「トロイの木馬」作戦敢行。結論から言つと、木馬は総ガラス張りでも良かったのかも

しれない。ということ。

米国議会での従軍慰安婦謝罪決議に対する抗議と沈黙化を求めての陳情、話題が拡大すれば米国の原爆投下、無差別空襲に対しての謝罪要求運動を起す。と申し入れ行きました。

【史上最強の地方議員軍団】
代表 高山 博光 福岡市議会議員

伊藤 玲子 元鎌倉市議会議員

古賀 俊昭 東京都議会議員

宍倉 清蔵 千葉市議会議員

三橋 弘明 茂原市議会議員

事務局 増木 重夫 西村 修平

大使館の周囲の警備は大坂領事館の10倍。周囲のビルの最上階には警備担当がいるとか。警視庁の警備隊長に「30分以内に帰ってこなかったら戦車で助けて着てヨ！」と約束。西村と、「無事出てこられるかな〜」。まず玄関での身体検査。携帯電話、ペットボトル、電子機器等一切持ち込み禁止。録音テープなど論外。係官に「拳銃は持ってないですか」と問われ、宍倉議員が「ささやかな物を一丁持っています。」とわけのわからない返答。伊藤玲子先生が「何言ってるのよ」と、わかってかわからずかわからないが一発かます！中に入ってから「CLEAN」のカードをもらう。すかさ

ず古賀議員が「縦書きにしろ！」ここでも言うか。応接間にたどり着くまでに計4回のセキキュリレーザーチェック。最後の関門は小銃を持った2人の前を通過。話が前後しますが、今回の大使館訪問に当たって、事前交渉で(当たり前の話ですが)①目的 ②訪問者名簿、等の提出を求められ根柢は質問されました。参加議員は「百人の会の地方議員有志が」ということでしたので「百人の会のエグ」の中身にまで質問されました。米国は我々のことを調べつくしています。

私の本業の塾のことにまで話は及びました。

私は、訪問者に事務局として一か八か西村修平を申請しました。西村と言えば、警備のおまわりさんと顔見知り。米国外使館に街宣、抗議に行った回数数十回。米国から見るとチョー札付き。ピンラビンか西村修平。そこまで大物ではないにしろブラックリストに乗っていることだけは間違いありません。西村を外せといわれるか、訪問が潰れるかの賭けでした。ところがノープロブレム。この西村の訪問を認めたことに、米国の「太ッ腹、奥の深さ」を感じます。「スゴイ国だな〜」通らばリーチと思っただけど、まさか通るとは。と脅威を覚えました。そして中に入りました。凛として、華美なことは一切無い質素な屋内。しかし始めてお目にかかる重厚さ。エレベーターで7階へ。そこに今回の対応者政務部次席マークナッパー氏が我々をニコニコと待ち受けていました。「ニコニコであり、ニヤニヤではありません。ましてやヘラヘラでもありません。」

氏の案内で部屋に入り席に着きました。ナッパー氏が英語で口火を切ります。①遠くからも来ていたことには大変感謝する。②地方議員、市民の皆さんと交流の場がもてたいへん嬉しい。今まで経験のないことだ。③英語で話すことをお許し戴きたい。私は皆様からお聞きしたことを私がどのように理解したかを話します。私は皆様の話されたことを正確に本国に伝える義務がある。間違った理解があれば指摘して欲しい。「たいへん丁寧でそつがない。應對に誠実さと真摯さを感じる。政治的回答の如何はもちろん分からない。しかし氏の対応を勉強できただけでも来た価値は十分にあったと思った。好まざる相手、もっ

と言えは脅しに来た相手にまで誠実に対応する寛容さ。氏がここまできちっと我々に対応したことが脅威の第二でした。私は今までに「背面服従役人マン」にいやというほど会ってきた。私は決してアメリカびいきではない。特に新米というわけではないがこの対応は日本の役所ではありえない。そして高山博光団長が、こちらが用意した趣意書と賛同人名簿を机の上に置き趣意を話し始める。私達の心配は「趣意書」、ハッキリ言えば脅迫状を米国が受けとるか否か。いかに、「原爆謝罪！」と書いてある趣意書を受けとらせるか。そこが作戦のポイントでした。訪問のポイントを取る段階で原爆謝罪を言いつつ、面談を拒否されるのではないかと、そのことは国境を越えてから話すこととし、「議会で従軍慰安婦謝罪決議に抗議」だけを面談の目的とし、申請したわけです。いわば、トロイの木馬作戦。しかしそれは余計な心配で杞憂に過ぎませんでした。

ナッパー氏は趣意書を受けとるも受けとらないも、逡巡する我々に「早く出せよ！」という雰囲気。そして手渡した書類を積極的に読み始めました。読み終えるのを待って高山博光団長が桜井よし子さんの資料等を示し、口頭で趣意を説明。伊藤先生が、「従軍慰安婦という言葉は当時はなかった」。宍倉先生が「従軍慰安婦は捏造話」、三橋先生は「もう終わりにしよう」。などと席順に一言一言交互に話しました。そして西村修平の番。彼が平成の大演説をぶち上げました！

「私は一日本国民として米国外使館政務部次席のマークE・ナッパー氏に申し上げます。議会で通つたいわゆる慰安婦強制連行の決議案だが、シナ・中共の対日精神侵略の重要構成部分であり、日本を

精神的に屈服させる歴史偽造であります。シニア大使始め米国議会の議員の方々の知性は極めて高いことを我々は知っています。その方々の知性をもってして、慰安婦強制連行が国家的レベルで日本が行ったなど、誰しもが信じてはいないはずであります。十分に歴史偽造であることを分かっていて、日本を非難している。慰安婦強制連行を最も声高に叫んでいるのが、中華人民共和国のシナ・中共だが、この国家は世界最大の人権蹂躪国家であることは言うまでもありません。この中華人民共和国は、我が国と同盟関係を結び、民主主義という価値を共有する貴国との関係において、国家の価値観を異にする一党独裁国家であります。

自由主義国家に属する筈の米国が、独裁国家のシナ・中共と一緒に歴史偽造を煽る事態を、我々は米国がシナ・中共と共に日本人を精神的に共同管理する方向へシフト転換したとみなさざるを得ません。つまり、国家の価値観を共有する同盟関係の破壊とみなすことが出来るのです。先程から、我々の発言にあった米国の原爆投下、東京大空襲、各地方 64 都市への爆撃、非戦闘員への機銃掃射などの戦争犯罪を、これまで告発することを控えて来たのは、貴国と日本が揺るぎない同盟関係にあればこそだったからです。昭和 20 年 8 月 15 日、米国占領軍の先遣隊が厚木基地に降り立ち、最初にした任務は米兵専用の慰安所の設置でした。米兵の婦女暴行を防ぐとして、我が国政府は早くも同月 18 日、通牒を発して、米兵相手の慰安所を各地に設置したのです。そこには日本人女性約 8 万人が集められ、貴国の兵を相手の性的使役に供せられた。米国は我が国女性に対して性奴隷制を強要したのであります。米国はシナ、朝鮮と仲良くして歴史偽造を演ずる前に、戦争犯罪の数々と日本人

女性に加えた幾多の性暴力に国家として謝罪し、被害者に賠償金を支払う義務が生ずるのです。米国が、独裁国家と共に歴史偽造を煽り、我が国の名誉を汚すに至っては、もはや同盟関係は成り立たない。米国が慰安婦決議案の撤回をしないとすれば、我々日本人は米国に言言しなければならぬ。日本国民は米国に寄せた幻想から自覚め自主独立を目指す。シナ・中共の侵略と戦うのはもちろん、我が国土は我が国民が守る自主独立であります。米国が犯した日本人殺戮の戦争犯罪と我が国女性に加えた性暴力の犯罪を徹底して告発・追及していくと。

願わくは、米国がこれ以上、我々にこうした行動を起こさなくても良いように最大限の配慮と決断を示して頂きたい。

これが西村修平の大演説の全容です。ほとんど一字一句間違っていないと思います。これは本に書いたわけでもなく、身内の講演会で言ったのでもありません。米国大使館で、大使館を代表して我々に担当した米国政府の高官に面と向かって声を荒げるわけでもなく、淡々と、しかも堂々と、目を見据え言ったのです。ナッパー氏も西村修平の顔から視線を外しません。まさに日米のガチンコ対決。私は聞いているだけで、その緊張から脂汗。今までに、ここまでハッキリものを言った日本人がいるでしょうか。次は古賀先生。「俺の言うことがない！」最後に私（増木）が、アメリカは兄である。たいへん尊敬している。しかし足を踏まれるといくら尊敬する兄であっても噛みつきたくもありません。日本と米国は絶対兄弟喧嘩をしてはいけない。世界の平和と秩序のため未永く信頼と友情を持って付き合わなければならない。それが破綻する原因をつくることは絶対止めて欲しい。今さら議会で決まったことを撤回が出来

ないことも重々承知している。日本には「塩漬け」と言う言葉があります。シミマセンが、「塩漬け」通訳してただけませんか（秘書に）。いや、意味は良く分かります（ナッパー氏）。塩漬けにして戴きたい。

ナッパー氏は「皆様のご要望はワシントンと議会で私が責任を持ってお伝えする。お約束します。」と語られました。それも我々から言い出だす前に。我々は我々の趣意が本国に届くかどうか、途中でもみ消されるのではなからうかと一番に心配したわけですが、我々の心情の先読み。敵ながらアッパシ！と言わざるを得ません。

ナッパー氏は 40 歳くらい。もちろん対応の作法は彼個人のものではなく米国の作法でしょうが、度量の大きさ・・・外交とは何かということをやというほど勉強させられました。そしてこれから日本が米国と対等に付き合うためにはどうしたらいいのか。それは国民総西村修平にならなければならないと感じました。こう言えば相手はこう思うだろうから、とか、これを言ったら角が立つ、友好にひびが入るからなどと思っていたら相手にバカにされるだけ。ハッキリ言わないことが日本の美德、奥ゆかしさ。それは国内の話であって、外国人と眞の友情を深めようと思ったら、日本人には最も苦手ですが「対応は誠実に、そして率直に思いを言うこと」これしかないと思います。私は原爆謝罪のことを「脅し」と表現しました。もちろん冗談です。しかし国際社会においてはこれが常識。ベトナム「脅し」でもなんでもないので。単なる外交カード。逆に言えばカードを持たずに外交交渉をすることが、相手にしてみれば、「おれたちゃ忙しいんだよ。暇人の愚痴に付き合えねえよ」ということになるのではないのでしょうか。そしてこの

ような接待術を日本の役人は是非身につけて戴きたい。

日本人の性格、アメリカ人の性格を考え、60 数年前、山本五十六長官は「戦争反対」を唱えたのではないのでしょうか。30 分間のアメリカ旅行でしたが、とにかく、日本人としての「誇り」だけはキッチリ守ってきました。緊張と充実と、生涯に残るであろう一日でした。「米国に長崎広島原爆投下の謝罪を求める地方議員と市民の会」は今後も活動を継続を続けます。ご声援ください。

米国に長崎広島原爆投下の謝罪を求める地方議員と市民の会
事務局長 増木重夫

活動資金等（協力）のお願い

まずは平素より私どもの活動に力強いご支援を賜り心から御礼申し上げます。

私たちは、このレポートにもありますように、日本の将来、子供達に輝く未来を約束するため、なによりも靖国神社を大事に思う運動を展開する任意団体です。ところが問題は活動資金。特別なスポンサーなどはなく寄付で賄っています。今まで以上にがんばります。何卒資金のご協力を伏してお願ひ申し上げます。

- 寄附（カンパ金）の主な使途
 - ・ 活動の為に資料作成費・発送費
 - ・ 交通費・通信費・備品購入費等
- ◇ 同封の郵便振替にてご協力ください。または郵便振替
 - 00980-7-329878

英霊を被告にして委員会